

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

医療現場リアル No.3

医療事故・医療訴訟を知る —— インシデント報告・再発防止・医師の法的責任

★ 清光学院の講師は、医療事故・医療訴訟の現場を経験してきた医師・医療法の専門家です。医療安全・医療訴訟の現場を当事者として知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 医療安全・インシデント報告を問う小論文

「医療事故を防ぐためにどうすべきか」という小論文は医学部で頻出である。インシデント報告制度・ヒヤリハットという概念を持つ受験生は、システム思考の観点から論じられる。

② 医師の法的責任を問う問題

「医師の過失とは何か」「医療訴訟の構造はどうなっているか」という問いは医学部面接・小論文の定番である。法的責任の枠組みを知っている受験生は、倫理と法律の両面から答えられる。

③ 「医療の質と安全」型の面接

「医療事故が起きたとき医師はどう対応すべきか」という面接質問に、インシデント報告・原因分析・再発防止という流れで答えられる受験生は、試験官に医療安全の深い理解があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

| 大学・学部 | 出題の傾向 | 本講座との対応 |
|-----------------|-------------------|--------------------------|
| 医学部全般（小論文） | 医療安全・医療事故防止を論じる問題 | システム思考と法的枠組みが論述に深みを与える |
| 医学部推薦・総合型選抜（面接） | 「医療ミスへの対応」型の問い | インシデント報告の知識が具体的な論述を可能にする |
| 医療系学部全般 | 医療の質改善・安全管理を問う問題 | ヒヤリハット・RCAの概念が医療安全論に直結する |
| 大学院・医学研究科 | 医療倫理と法律の関係を問う問題 | 医療訴訟の構造が倫理・法律の交差点を示す |

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「ミスをしないようにします」という答えは採点者には「システム思考がない」と映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）インシデント報告・ヒヤリハットの仕組みを説明できる、（2）医療事故を個人責任論でなくシステム問題として論じられる、（3）面接で医療安全の対応を法的・倫理的枠組みで語れる、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。